

令和4年度第1回碧南市子ども・子育て会議 会議録

1 日時

令和5年2月6日（月）午後2時～午後3時まで

2 場所

碧南市役所2階 会議室4・5

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者 鈴木政枝、小田直樹、水野裕子、板倉尚子、杉浦龍一、鈴木裕、鈴木裕子、西澤瑛子、山田直美、加藤京恵、小林真人、竹中瑛智、鈴木忠義、杉浦賢二、松永聡、加藤里美、栗並えみ、鈴木理絵、渡部努（委員兼アドバイザー）

(2) 欠席者 戸間将

(3) 事務局職員 福祉子ども部長 深津広明、子ども課長 中川知之、子ども課指導保育士 久野貴美代、子ども課指導主事 杉浦由美子、子ども課課長補佐幼保係 磯貝浩、子ども課課長補佐育成支援係 小林真代、育成支援係主事 古居曜、福祉課課長補佐発達支援係 鈴木信恵、健康課母子保健係長 羽佐田美和子

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1) 令和4年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
- (2) 令和5年度の保育園・こども園・幼稚園・児童クラブの申し込み状況について
- (3) その他

6 議事録

(1) あいさつ（鈴木会長）

(2) 議題

ア 令和4年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

事務局が資料に基づき説明

A委員：保育園、幼稚園、こども園の保育士からの要望等はこども課に届いてい

るのか。また、保育園等で抱えている問題、その解決策等を記載して欲しい。

事務局：公立の幼稚園、保育園については毎月1回園長会を開催している。その中でいろいろな活動や新型コロナウイルス感染症に対する対策等、さまざまな事に関し意見交換をしている。民間の保育園・こども園については、年1回意見を伺う機会を設けており、保育園等と情報交換を行いながら、運営している。

1つ例を挙げると、近年課題とされている配置基準についてだが、碧南市独自で、障害のあるお子さんがいる場合に手厚い加配保育士の配置に努めている。

また次回以降、保育園等の抱えている課題、解決策等を掲載するよう検討する。

A委員：保育園等送迎時において、車の運転が危ないと感じることがあるが指導はしているのか。

事務局：園だより等で交通安全の注意喚起をしている。今後も注意喚起の方法を検討していく。

B委員：外国にルーツのある親子に対する支援について注視している。2021年に三河地方の無届の認可外保育施設において起きた死亡事故は碧南市においても無関係なことではないと思っている。無届の保育施設のため、行政が把握することは難しいことだが、そこに頼らざるを得なかった親子の状況については目を向けていく必要がある。入園の申込は、いろいろな手続きがあり、丁寧に行われるべきだが、その反面丁寧な手続きに外国にルーツのある親子が対応できるか、情報を把握できるかという問題がある。

死亡事故で犠牲になった子どもが外国籍の子どもだったため、入園申込の方法が把握できていたのかが気になるところだ。これには働き方の問題もある。派遣だと「明日から来られるなら雇う」という会社もある。そうなれば、保育園に申し込みする時間的余裕はない。そうなれば、身近なコミュニティの中の預かり合いに頼らざるを得ない。働き方の問題は、行政の範囲から離れてしまうが、入園の手続き方法や、市内の保育園等の案内が幅広く行われ、それが外国にルーツのある親子に届いているかは気にすべき点だ。

また、現在ショートステイは、利用実績はないが、必要なものであるため今後も事業を継続していくことについて、すごく支持をしている。現在、社会的課

題として無園児がある。ショートステイの利用に関しては長期的な課題だと思うが、外国にルーツのある親子に対する支援は三河地方の自治体としては取り組んでいくべき喫緊の課題だと思う。検討をお願いしたい。

事務局：碧南市の外国にルーツのあるお子さんの受入状況は、認可している保育園・幼稚園においては他の自治体に比べ多い。在園児の1割以上が外国にルーツのあるお子さんである。公立園ではポケットーク（翻訳機）を使用し、意思疎通を図れるよう努めている。

しかし、認可している保育園・幼稚園に通園していない児童の状況というのは把握ができていないのが現状である。碧南市には認可保育施設が21施設、認可外保育施設が9つある。そのうち一部には病院内の保育所や、企業が運営している保育所がある。また、ブラジル人系のお子さんが通う認可外保育施設が3つある。愛知県が所管施設ということもあり、令和元年度までは認可外保育施設とこども課では直接的な関りがなかった。しかし、令和元年度に始まった特定教育・保育の無償化に伴い、愛知県と市町村がタッグを組む形で毎年1回認可外保育施設へも監査に行くようになった。その甲斐もあり、認可外保育施設においても保育が適切に行われているか確認することができ、より良い保育環境の構築に繋がっている。

碧南市では、情報も把握ができていない無届け施設はないという認識だが、身近なコミュニティの中の預かり合いを利用している親子の情報も集められるよう努めたい。また、死亡事故については愛知県から通知がきており、市内でそのようなことがないように保育所等と連携をとっていきたい。

また、今日明日で保育所を探している方についてはプチ保育事業を案内している。プチ保育は、市内8園で行っており、在園児以外にも受け入れを行っている。事前面接が必要なため、即日ということは難しいかもしれないが外国籍の児童も利用している。そこから認可保育施設や認可外保育施設に繋げることができるとも考えている。

ショートステイ・トワイライトステイについては、外国籍のお子さんもちろん利用することが可能である。しかし、行ったことのない場所、言葉の通じない場所にお子さん1人で行くとなるとお子さんの負担も大きい。しかし、希望があれば受入を行えるよう調整する。

また、ホームページへは日本語で案内をしており、発信の仕方については今後検討していく。今年度、外国にルーツのある親子からの問い合わせはなかったが、潜在的には利用したい方がいても、そこまで情報が届いていない可能性はあると考えられる。今後の課題だ。

市全体としても、外国籍の方への支援や情報をどう届けるかについては課題だと思っている。碧南市では今年度より、市役所内に外国人窓口を設置した。そこに来庁されれば、担当課へ繋げられると考えている。また、近年はスマートフォンの翻訳機能を使用し、情報を得て来庁される方も多いと聞いている。碧南市の人口が約7万3千人であり、そのうち7.5%が外国籍である。外国籍の方へ情報をどう届けるのかは、市全体の課題として取り組んで行きたい。

A委員：虐待の相談件数の報告があるが、昨年度に比べ今年度は多いと思うが、今後増えていく傾向にあるのか。また、虐待はどういったところから発覚しているのか知りたい。

事務局：多くは学校や保育園から情報が入ってくる。また、民生委員や近隣住民からの通報もある。虐待への関心が上がっており、虐待がすごく増えているというよりかは、いままで隠れていたものが露呈した結果だと思われる。通報があっても、実際には虐待ではなかったケースもある。今後も何か気になることがあれば、市に連絡していただき、市が調査し、実際に家庭に対し指導が必要かどうか判断していきたい。

令和4年度碧南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について挙手多数により承認された。

イ 令和5年度の保育園・こども園・幼稚園・児童クラブの申し込み状況について事務局が資料に基づき説明
委員からの意見・質問は無し。

ウ その他（自由意見）

C委員：近年、就学まで保育園等に通わない無園児が増加している。

政府もここ最近調査を進めている。今後さらに明らかになる問題だと思っている。外国籍や外国にルーツのあるお子さんに無園児が多いとされており、理由としては入園手続きの難しさがあると言われている。日本語でも手続きが1つの壁になっている。支援をしていくとなると、アウトリーチ型の支援

が必要だ。支援をする側が手を差し伸べる必要がある。支援の拡充を進めてほしい。

最近メディアでも注目されている不適切保育については、他人事ではないという意識が必要だ。メディアで取り上げられているものも氷山の一角に過ぎないだろう。保育士のストレスや業務過多が原因の一つとしてあげられる。碧南市では保育アシスタントを導入し、保育士の業務軽減に努めているため、今後も進めてほしい。また、保育者の団体からは保育士の配置について要望が挙げられている。保育士の配置というのは、何十年も変わっていないのが現状であり、保育士も負担や限界を感じていると推測される。独自で配置基準を設けている自治体もある。国の配置基準のみでなく、自治体としての配置基準の検討は必要になってくる方策だと思う。

加えて、ITの推進し、保育士の業務軽減も進めてほしい。実際に保育士の意見を聞くと、ITが導入されたからといって必ずしも業務が軽減されるわけではないことがある。導入の仕方については、現場の保育士の意見を聞き、業務軽減がある方法を模索してほしい。

ここ最近話題になっているのが、保育の利用ニーズが2025年にピークを迎えると厚生労働省からも推測が出されている。令和3年度より新子育て安心プランに取り組み始め、保育の受け皿を増やしていこうとしているが、一方で令和7年以降は利用者が減っていくと推測されている。その後問題になるのは、定員割れの保育園等の増加である。現在は受け皿を増やすということに重きを置いているが、今後は質に目を向けられるようになると推測される。先を見据え、どういったことが今後必要か考えることが重要だと思う。本日受けた報告で支援体制は整っていることがわかったが、今後は本当に必要な方への情報提供や、実際に働いている保育士が抱えている問題にさらに注視していくとより良い支援体制ができると思う。

事務局：先生からいただいた意見を保育や子育て支援に活かしていきたい。独自の配置基準について補足で説明させていただきたい。1歳児については国の基準では、園児6人に対し、保育士1人の割合だが、碧南市の基準は園児5人に対し、保育士1人になっている。

3歳児においては国の基準である園児20人に対し保育士1人の割合を、園

児15人に対し保育士1人にしている。全年齢児ではないが、独自の基準で受入れるよう努めている。

また、休憩や休みを取得しやすくなるように保育アシスタントや、週休対応保育士の配置に努めている。お子さんを預かる大変な仕事であり、1人で複数人のお子さんを見るというのは大変な仕事だと感じている。

大人の目を増やすことで業務軽減をしていきたい。

加えて ICT 化も進めることで、事務の書類の作成等が軽減されるよういろいろな面で進めていきたい。